

● CNC P はあなたが参加し楽しく議論し活動する場です ●

シリーズ「土木ということば」

第 8 回 Civil Engineering の受容

幕末になって、外国からの新しい知識、概念を翻訳して受容するために多くの和製漢語が作られ、旧来の漢語にも新しい意味が付与された。「建築」は蘭書『日本風俗備考（フィッセル）』を天保年間（1840 年頃）に杉田成卿（蘭学医杉田玄白の孫）が「stad (=city) Jedo」を「江戸の建築極めて壮大にして、」と翻訳したのが初出。英語からは文久二年（1862 年）『英和対訳袖珍辞書（堀辰之助）』の「Architect, s. 建築術の学者 / Architecture, s. 建築学」である。

前回、明治二年（1869 年）の「土木司」が「道路橋梁堤防等営作ノ事ヲ専管スルヲ掌ル」として、新政府が「土木」に新しい意味を与えたことを示した。

明治六年（1873 年）、工学校のために来日する英国人教師 Henry Dyer は、工部大輔山尾庸三の命を受けて岩倉使節団から離脱して同道した二等書記官林董（幕府の英国留学生で英語力は当代一）とともに工学校の組織と講義の計画書である『Imperial College of Engineering, Tokei: Calendar』を作成。翻訳された『工学寮入学式並学課略則（工部省）』の中に Civil Engineering は「シビルエンジニアール 道路橋梁等都テ土木ニ係ル諸術」とされ、明治七年（1874 年）『工学寮学課並諸規則（工部省）』で「土木学 道路橋梁ノ経営川港ノ堤防等総テ土木ノ術ヲ云」学課が設置され、学問としての「土木学」が確立した。

（土木学会土木広報センター次長 小松 淳）

Vol.56 コンテンツ

巻頭言	空の上で思ったこと	酒井 利夫	2
コラム	ジェロントロジー	中村 裕司	3
トピックス	JFMA 公共インフラマネジメント連続シンポジウム報告（1）	鈴木 泉	4
会員紹介	NPO法人・いきいき 35		6
部門活動紹介	企画サービス部門	龍井 俊憲	7
シドニー視察旅行記（13）	オーストラリアはサラダボール国家	世古 一穂	9
会員からの投稿	木版画年賀状	比奈地 信雄	10
事務局通信			11